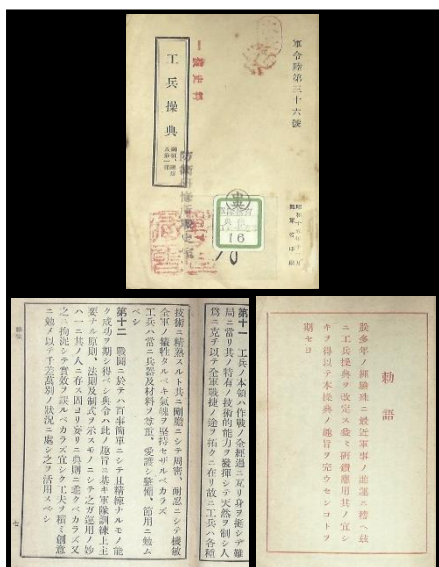


平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 よしはら かね 吉原 矩 1893～1984 年 》

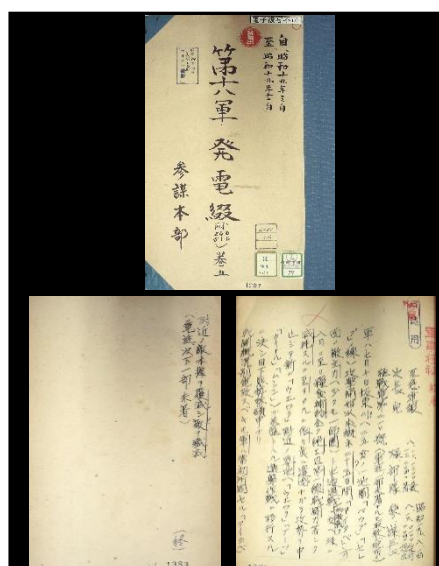
—茨城県出身の陸軍中将—



工兵操典

(登録番号：中央-軍隊教育典範工兵-鉄道等-16)

吉原矩中将は、大正 4 年陸軍士官学校を卒業(27 期)し、鉄道第 1 連隊、砲工学校高等科などを経て、陸軍大学校を大正 12 年に卒業(35 期)します。その後、鉄道第 1 連隊中隊長などを務め、14 年 12 月工兵監部部員となり、工兵監の統監する国軍最初の上陸作戦特別演習の計画主任となります。その後、陸大教官、フランス出張、陸軍省軍務局課員、工兵監部部員などを経て、昭和 12 年 9 月第 13 師団参謀となり、支那事変に参加します。11 月大佐に昇進、13 年 3 月同師団参謀長、12 月北支那方面軍参謀に任ぜられますが、航空機事故により負傷、14 年 9 月工兵監部部員に転補され工兵操典の改定及び鉄道兵操典の制定を命ぜられます。この時、改定された工兵操典が左掲の史料であり、吉原が述べる、工兵の本質、“技術というものを背に負って、他職種に協力すること”(『日本工兵物語])が反映されています。



第 18 軍発電綴 巻 1～5 (登録番号：中央-作戦指導重要電報-73～77)

その後、吉原は、昭和 15 年 12 月少将に昇進、工兵監部付、16 年 11 月第 1 工兵隊司令官、17 年 7 月には第 2 方面軍参謀長となります。しかし、同年 11 月には新たに編成された第 18 軍の参謀長としてラバウルに赴任します。この方面軍参謀長から軍参謀長への異例な人事は、当時のニューギニアの重要性と、勇将、猛将と知れた軍司令官安達二十三の参謀長に適任であったためといわれています(『追懐記』)。吉原は、19 年 3 月には中将に昇進しますが、筆舌に絶する困難な東部ニューギニア作戦を担当した軍参謀長として、21 年 2 月復員までの間、献身的に軍司令官補佐の大任を全うします。吉原は、任務のため祖国のため、いかなる苦難と闘っても最後まで望みを捨てぬ姿勢こそ、「ニューギニア」精神であると回想しています(『南十字星』)。この史料には、この作戦間、主に吉原が発簡した電報が綴られています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>